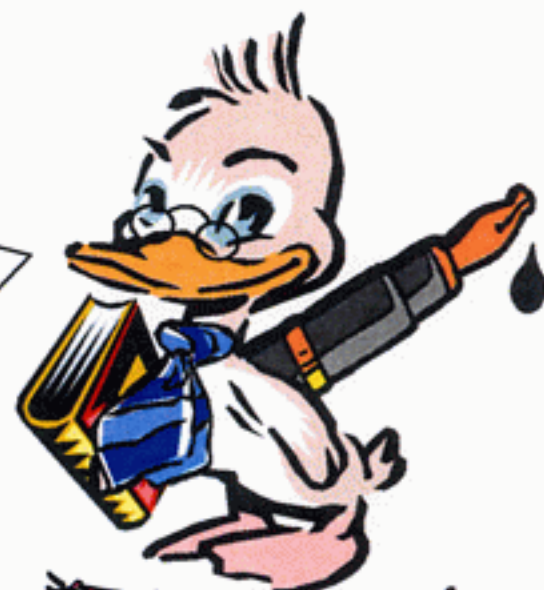


資料ちゃんからのお知らせ



すっかり春ですね。
新しい生活には慣れたかな？
今回は日本でここ数十年の間に
起こった地震をまとめてみました。
どんな地震だったのか、気になる
よね。



資料ちゃん

『被災度別建物分布状況図(神戸・阪神地域)』 をご覧いただけるようになりました！

阪神・淡路大震災では、兵庫県内で全壊・全焼が111,123棟、半壊・半焼が137,289棟(平成15年12月25日現在)と約25万棟の家屋が大きな被害を受けました。このような建物の被害状況を具体的に調査した「被災度別建物分布状況図」が資料室でご覧いただけます。



この分布図は震災直後の1月下旬～3月中旬に行われた、日本都市計画学会関西支部・日本建築学会近畿支部都市計画部会の調査をもとにしています。

内容としては、1つの市町(区)をいくつかのブロックに分け、建物の被災状況を、外観から4つの被災度ランク(全壊また大破(赤)、中程度の損傷(オレンジ)、軽微な損傷(黄)、外観上の被害なし(緑)の4段階)に区分して、25,000分の1の地図上に詳細に色分けされています。

「大橋」(神戸市長田区)より野田町6丁目周辺



近年、日本で起こった大きな地震



世界有数の地震国である日本では、何年かに一度、大きな地震が発生しています。壊滅的な被害をもたらし、多くの犠牲者を出した地震被害も多くありました。まだ記憶に生々しい地震から、少し前の地震まで、各地域ごとにまとめてみました。

北海道南西沖地震

発生は午後10時17分。地震による建物の倒壊に加え、火災、津波の発生により202名の命が失われた。奥尻島西岸の南部地域に位置する藻内地区周辺では、約15～20メートルもの津波が押し寄せたという。

宮城県北部連続地震

震度6クラスの強い地震が同日に3回も発生し、負傷者677名、全壊1115戸などの被害をもたらした。

北海道西部・東北日本海側

- ・北海道南西沖地震(1993年7月12日)
- ・日本海中部地震(1983年5月26日)

北海道東部・東北太平洋側

- ・宮城県北部連続地震(2003年9月26日)
- ・三陸はるか沖地震(1994年12月28日)
- ・北海道東方沖地震(1994年10月4日)
- ・釧路沖地震(1993年1月15日)
- ・宮城県沖地震(1978年6月12日)

三陸はるか沖地震

(1994年12月28日)
発生は午後9時19分
震度6の八戸を中心に、家屋倒壊などの被害により、3名が犠牲となった。

新潟地震

発生は午後1時1分。新潟、山形、秋田を中心に被害。家屋倒壊などで26名が犠牲となった。液状化、津波も発生した。

信越・北陸・関東

- ・三宅島噴火に伴う群発地震(2000年6月26日)
- ・千葉県東沖地震(1987年12月17日)
- ・長野県西部地震(1984年9月14日)
- ・新潟地震(1964年6月16日)

三宅島噴火に伴う群発地震

発生から2カ月の間にマグニチュード5以上の地震が40回以上発生。島民の避難生活は今なお続いている。

北丹後地震

発生は午後6時27分。被害は福井から近畿、四国、中国地方に及び、家屋全壊は1万戸以上、2925名もの犠牲者をだした。

東海

- ・伊豆大島近海の地震(1978年1月14日)
- ・伊豆半島沖地震(1974年5月9日)
- ・三河地震(1945年1月13日)
- ・東南海地震(1944年12月7日)

伊豆半島沖地震

土砂崩れなどで、30名が犠牲となった。その4年後に「伊豆大島近海の地震」が発生し、地すべりなどで25名が犠牲となった。

近畿

- ・兵庫県南部地震(1995年1月17日)
- ・吉野地震(1952年7月18日)
- ・南海地震(1946年12月21日)
- 東海から紀南、四国など広い範囲に被害
- ・河内大和地震(1936年2月21日)
- ・北丹後地震(1927年3月7日)

東南海地震

発生は午後1時35分。静岡、愛知、三重などで死者、行方不明者1223名。家屋全壊は1万戸以上、津波が発生し、3000戸以上が流失した。三河地震とともに、戦時中の報道管制で、国内ではあまり報道されなかったが、津波がアメリカにも及び、海外では大きく取り上げられていた。

鳥取地震

発生は午後5時36分。地震により鹿野断層、吉岡断層が生じ、地割れが多かった。家屋倒壊などで1083名もの犠牲者を出したが、戦時下の報道管制のため、大きく報道されなかった。

中国・四国・九州・沖縄

- ・ 芸予地震(2001年3月24日)
- ・ 鳥取県西部地震(2000年10月26日)
- ・ 日向灘地震(1968年4月1日)
- ・ えびの地震(1968年2月21日)
- ・ 鳥取地震(1943年9月10日)

芸予地震

発生は午後3時27分。震源は瀬戸内海西部の安芸灘。犠牲者2名、全壊家屋70戸。被害は中国、四国、九州に及んだ。

このほかにも、1960年5月23日にチリ沖で発生した地震による津波で、北海道南岸、三陸海岸から沖縄にいたる広範囲で大きな被害があった。津波の高さは三陸海岸で5~6メートルほどにもなったという。

参考資料 『理科年表 平成16年』(3-A 25814)丸善
『大震災と報道展』(2-B 25527)日本新聞博物館
『図解雑学 地震に強い建物』(3-C ジュ25664)ナツメ社



★ ★ ★ 新 着 図 書



| 題名 | 著者・記事作成者 | 発行者・発行者 |
|-------------------------|--------------------|---------------------|
| 関東大震災 きのふの空 第2部 | 小林恒子 | 東京布井出版(株) |
| 近世災害情報論 | 北原系子 | (株)塙書房 |
| 雲仙記者日記 | 神戸金史 | (株)ジャストシステム |
| 関東大震災時の朝鮮人虐殺 | 山田昭次 | 創史社 |
| 地震発生と水 | | (財)東京大学出版会 |
| 地震と建築防災工学 | 小野徹郎 | 理工図書(株) |
| 災害文化史の研究 | 笹本正治 | 高志書院 |
| 地盤と構造物の地震工学 | 小長井一男 | (財)東京大学出版会 |
| マントル・地殻の地球科学 | 日本地球科学学会(監修) | (株)培風館 |
| 語り継ぎたい、命の尊さ 増補版 | 住田功一(NHKアナウンサー) | 一橋出版(株) |
| 神戸市地域防災計画 平成15年6月 | | 神戸市防災会議 |
| 御菅カルタ | 御蔵通5・6・7丁目自治会カルタ部会 | まち・コミュニケーション |
| ゆうへ | たかいちづ | (株)ディスカヴァー・トゥエンティワン |
| 働く犬たち | M・ウェイズボード K・カチャノフ | 中央公論社 |
| 風水書論 防災学講座1 | | (株)山海堂 |
| 地震災害論 防災学講座2 | | (株)山海堂 |
| 地盤災害論 防災学講座3 | | (株)山海堂 |
| 防災計画論 防災学講座4 | | (株)山海堂 |
| 高潮の研究 | 宮崎正衛 | (株)成山堂書店 |
| 浅間山大噴火 | 渡辺尚志 | (株)吉川弘文館 |
| 市民自治と市民防災 | 松本由隆 | 拓植書房新社 |
| 寺田寅彦と地震予知 | 小林惟司 | 東京図書(株) |
| 条例による総合的まちづくり | 小林重敬 [ほか] | (株)学芸出版社 |
| 地震と火山と侵食 | B.W.ビブキン D.D.トレント | 古今書院 |
| 理科年表 平成16年 机上版 | | 丸善(株) |
| 子どもが心をひらくとき | 藤井昌子 | ロータリー子どもの家 |
| 21世紀の国際化論 | 芹田健太郎 | (株)兵庫ジャーナル社 |
| 密集市街地のまちづくり | 黒崎羊二 [ほか] | (株)学芸出版 |
| 都市論の脱構築 | 大久保昌一 | (株)学芸出版 |
| 図説 関東大震災 | | 河出書房新社 |
| 都市を保全する | 西村幸夫 [ほか] | 鹿島出版会 |
| アーカイブ前史 | | 震災・まちのアーカイブ |
| 日本のため池 | 内田和子 | 海青社 |
| ポートフォリオでプロジェクト学習! | 鈴木敏恵 | (株)教育同人社 |
| 図解よくわかる 自治体の防災・危機管理のしくみ | 鍵屋一 | 学陽書房 |
| 地域防災力強化宣言 | 鍵屋一 | (株)ぎょうせい |
| 火の鳥の女性たち | 中村順子 [ほか] | (株)兵庫ジャーナル社 |
| ボランティア白書 2003 | | (社)日本青年福祉協会(JYVA) |
| 消防白書 平成15年版 | | (株)ぎょうせい |
| 鯨は踊る | 若水俊 | (株)文芸社 |